

生物多様性についてのアンケート結果

いろいろな環境に様々な特徴を持った生物が生息・生育していることを生物多様性といいます。生物はそれぞれが複雑に関係しあいながら生息・生育しており、生物多様性は我々人間を含めた全ての生物の生存の基盤になっています。悠久の時間の中で育まれてきた生物多様性の価値を知り、未来へ引き継いでいく工夫を行っていくことが大切です。

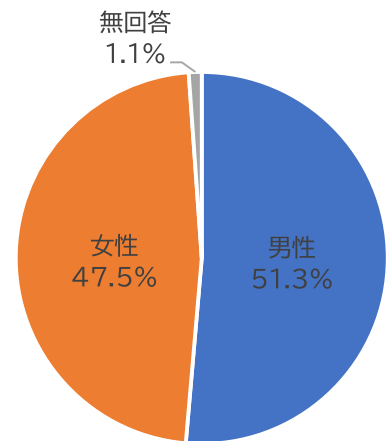
生物多様性の保全・回復を図っていくに当たり、生物多様性についての県民の皆様の意識の把握等を目的として、アンケート調査を実施しました。

- 調査時期:令和5年5月
- 対象者:県政モニター297人
- 回答数:265人(回収率89.2%)
- 担当課:琵琶湖環境部 自然環境保全課

【属性】

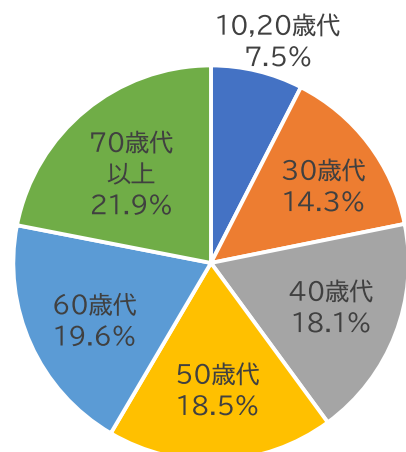
●性別

項目	人数(人)	割合(%)
男性	136	51.3
女性	126	47.5
無回答	3	1.1
合計	265	100.0



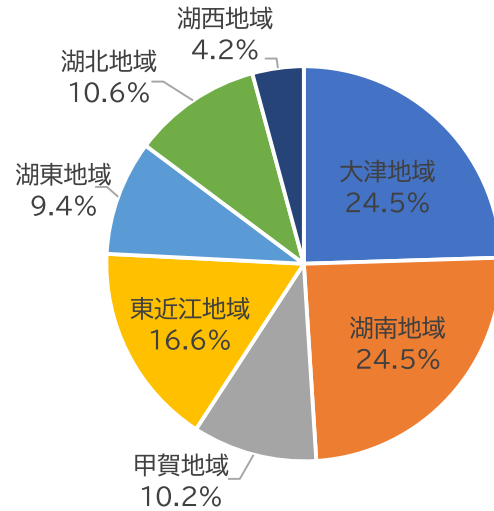
●年代

項目	人数(人)	割合(%)
10、20歳代	20	7.5
30歳代	38	14.3
40歳代	48	18.1
50歳代	49	18.5
60歳代	52	19.6
70歳代以上	58	21.9
合計	265	100.0



●地域

項目	人数（人）	割合（％）
大津地域	65	24.5
湖南地域	65	24.5
甲賀地域	27	10.2
東近江地域	44	16.6
湖東地域	25	9.4
湖北地域	28	10.6
湖西地域	11	4.2
合計	265	100.0

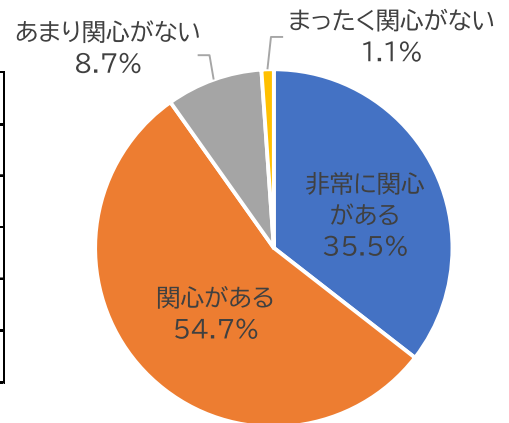


【各設問に係る結果】

●問1 自然への関心度

あなたは自然についてどの程度関心を持っていますか。

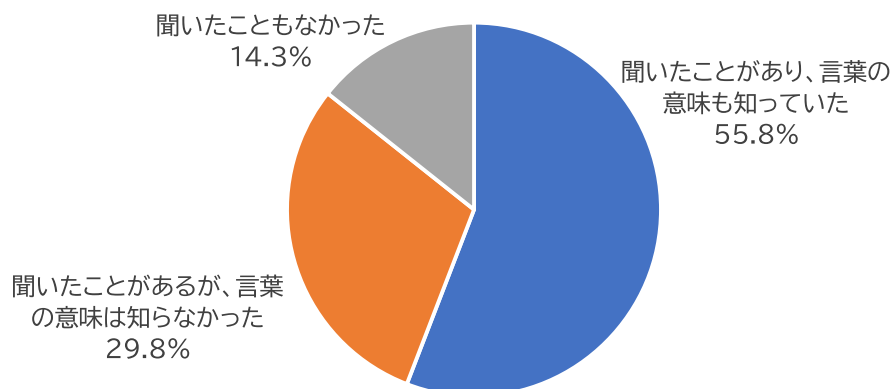
項目	人数（人）	割合（％）
非常に関心がある	94	35.5
関心がある	145	54.7
あまり関心がない	23	8.7
まったく関心がない	3	1.1
合計	265	100.0



●問2 生物多様性の認知度

あなたは、これまで「生物多様性」という言葉を知っていましたか。

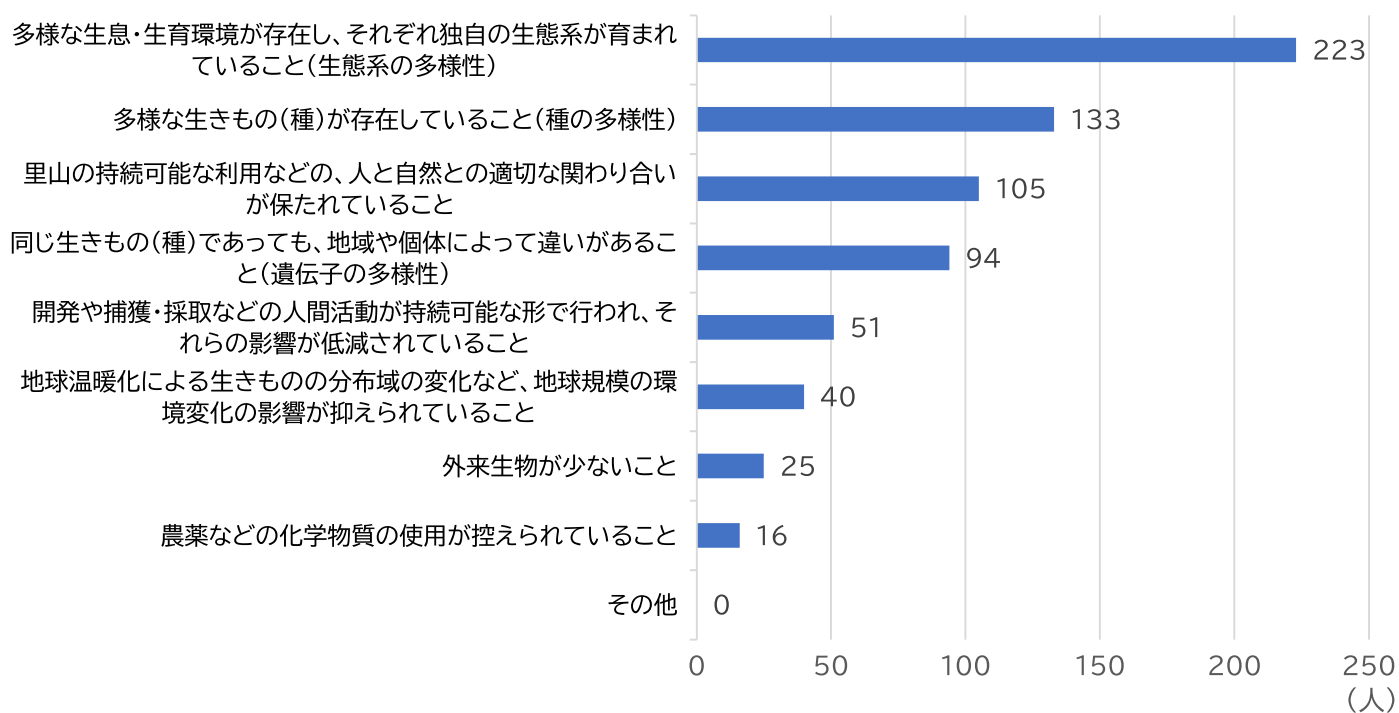
項目	人数（人）	割合（％）
聞いたことがあり、言葉の意味も知っていた	148	55.8
聞いたことがあるが、言葉の意味は知らなかった	79	29.8
聞いたこともなかった	38	14.3
合計	265	100.0



●問3 生物多様性保全の視点

生物多様性が保全されている状態とは、どういうことだと考えますか。(3つまで選択可
n=256)

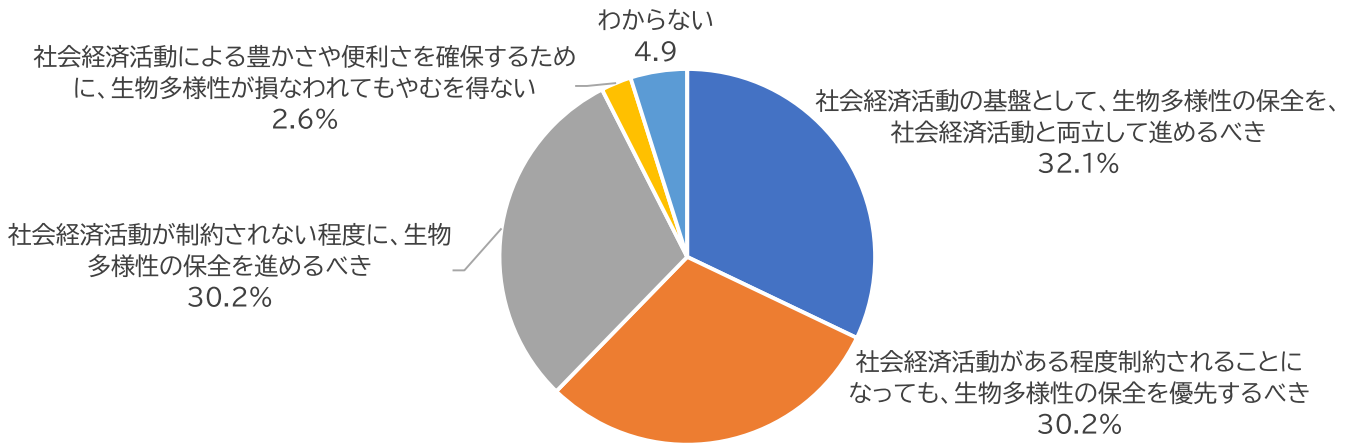
項目	人数(人)	割合(%)
多様な生息・生育環境が存在し、それぞれ独自の生態系が育まれていること(生態系の多様性)	223	84.2
多様な生きもの(種)が存在していること(種の多様性)	133	50.2
里山の持続可能な利用などの、人と自然との適切な関わり合いが保たれていること	105	39.6
同じ生きもの(種)であっても、地域や個体によって違いがあること(遺伝子の多様性)	94	35.5
開発や捕獲・採取などの人間活動が持続可能な形で行われ、それらの影響が低減されていること	51	19.2
地球温暖化による生きものの分布域の変化など、地球規模の環境変化の影響が抑えられていること	40	15.1
外来生物が少ないこと	25	9.4
農薬などの化学物質の使用が控えられていること	16	6.0
その他	0	0.0



●問4 生物多様性保全に対する意識

生物多様性を保全することは、多様な生きものの生息・生育環境を守るだけでなく、私たちが当たり前前に利用している水や食料、木材などの恵みの維持にもつながります。あなたは生物多様性の保全と人間の社会経済活動との関係についてどう思いますか。

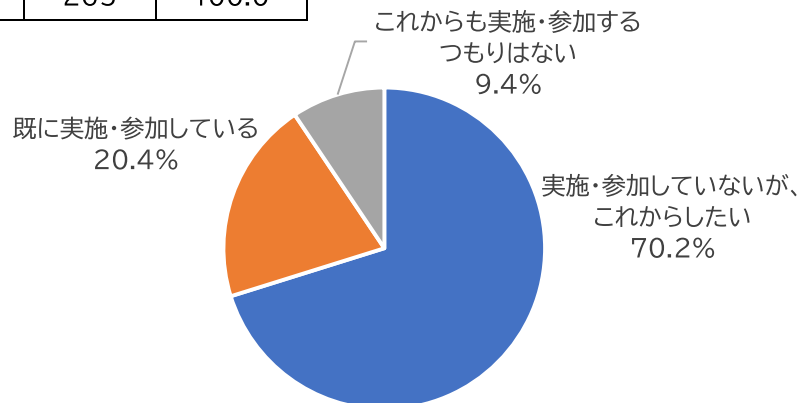
項目	人数(人)	割合(%)
社会経済活動の基盤として、生物多様性の保全を、社会経済活動と両立して進めるべき	85	32.1
社会経済活動がある程度制約されることになっても、生物多様性の保全を優先するべき	80	30.2
社会経済活動が制約されない程度に、生物多様性の保全を進めるべき	80	30.2
社会経済活動による豊かさや便利さを確保するために、生物多様性が損なわれてもやむを得ない	7	2.6
わからない	13	4.9
その他	0	0.0
合計	265	100.0



●問5 生物多様性保全につながる活動の実施・参加

あなたは、生物多様性の保全につながる活動を実施・参加していますか。

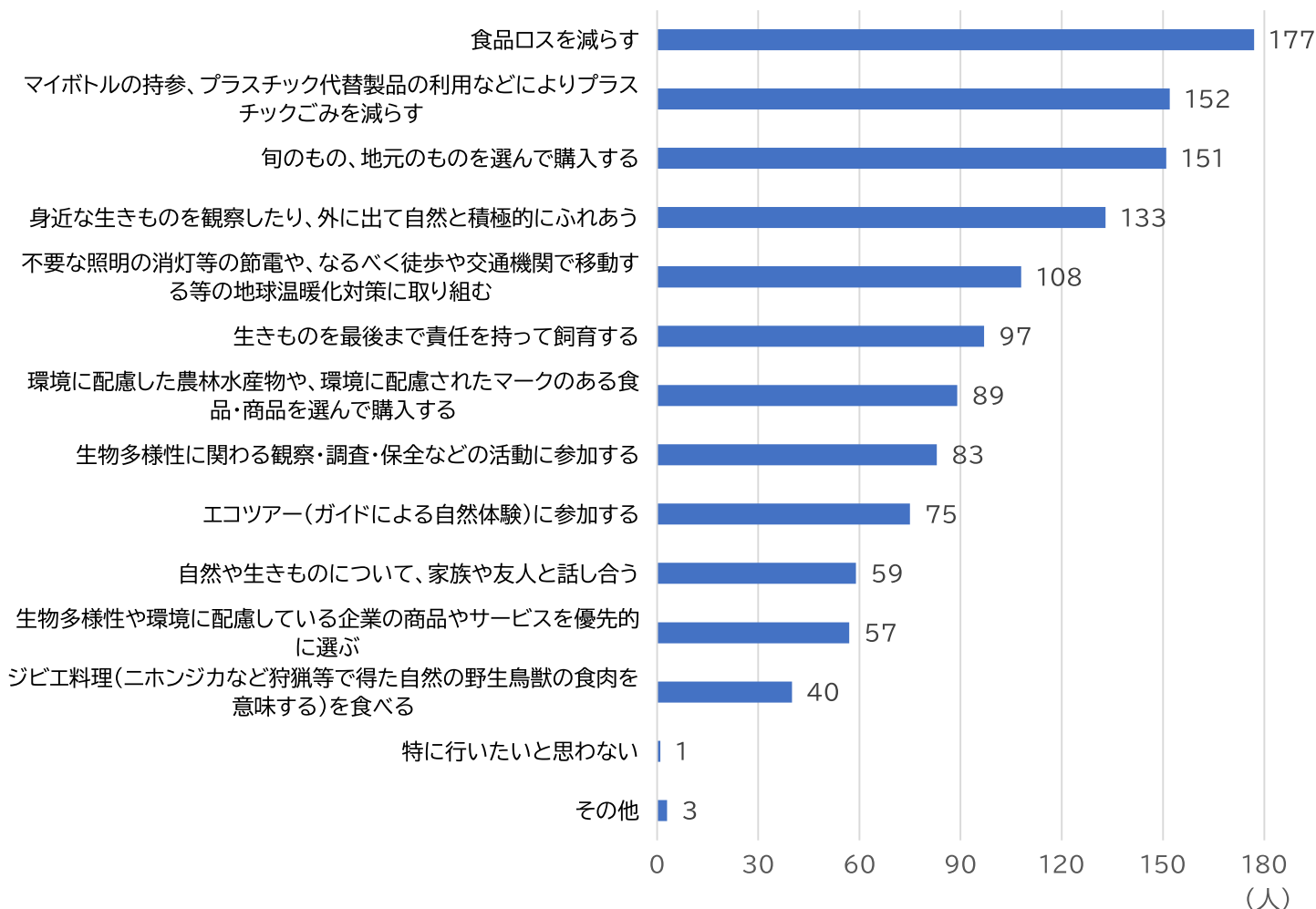
項目	人数(人)	割合(%)
実施・参加していないが、これからしたい	186	70.2
既に実施・参加している	54	20.4
これからも実施・参加するつもりはない	25	9.4
合計	265	100.0



●問6 生物多様性保全につながる活動の種類

あなたは、生物多様性の保全につながる活動として、どのようなことを行いたいと思いますか。これまでにやってきたことも含めてお答えください。(いくつでも選択可 n=265)

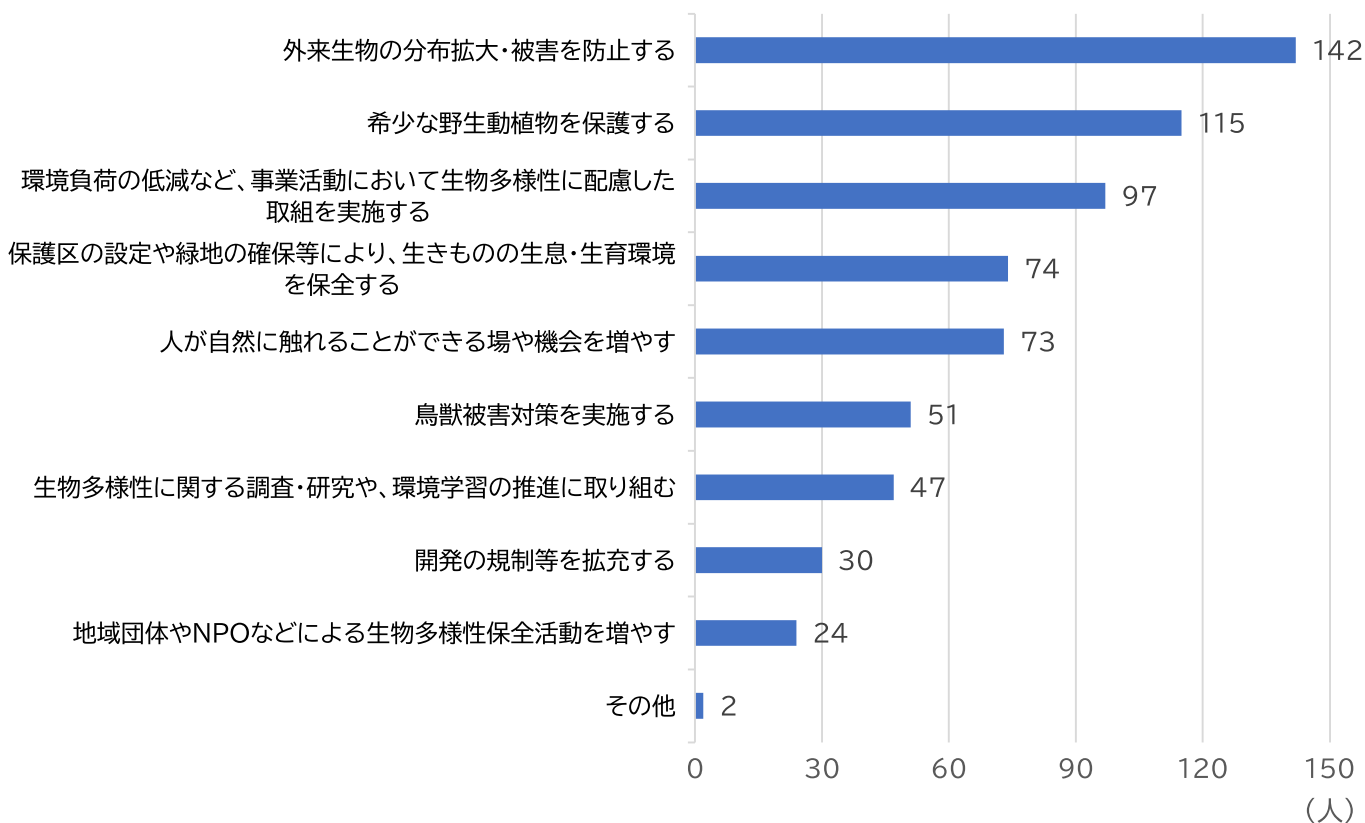
項目	人数(人)	割合(%)
食品ロスを減らす	177	66.8
マイボトルの持参、プラスチック代替製品の利用などによりプラスチックごみを減らす	152	57.4
旬のもの、地元のものを選んで購入する	151	57.0
身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的にふれあう	133	50.2
不要な照明の消灯等の節電や、なるべく徒歩や交通機関で移動する等の地球温暖化対策に取り組む	108	40.8
生きものを最後まで責任を持って飼育する	97	36.6
環境に配慮した農林水産物や、環境に配慮されたマークのある食品・商品を選んで購入する	89	33.6
生物多様性に関わる観察・調査・保全などの活動に参加する	83	31.3
エコツアー(ガイドによる自然体験)に参加する	75	28.3
自然や生きものについて、家族や友人と話し合う	59	22.3
生物多様性や環境に配慮している企業の商品やサービスを優先的に選ぶ	57	21.5
ジビエ料理(ニホンジカなど狩猟等で得た自然の野生鳥獣の食肉を意味する)を食べる	40	15.1
特に行いたいと思わない	1	0.4
その他	3	1.1



●問7 生物多様性につながる取組

生物多様性を保全したり自然と共生する社会づくりに向けて、どのようなことをみんなで進めるべきだと思いますか。(3つまで選択可 n=265)

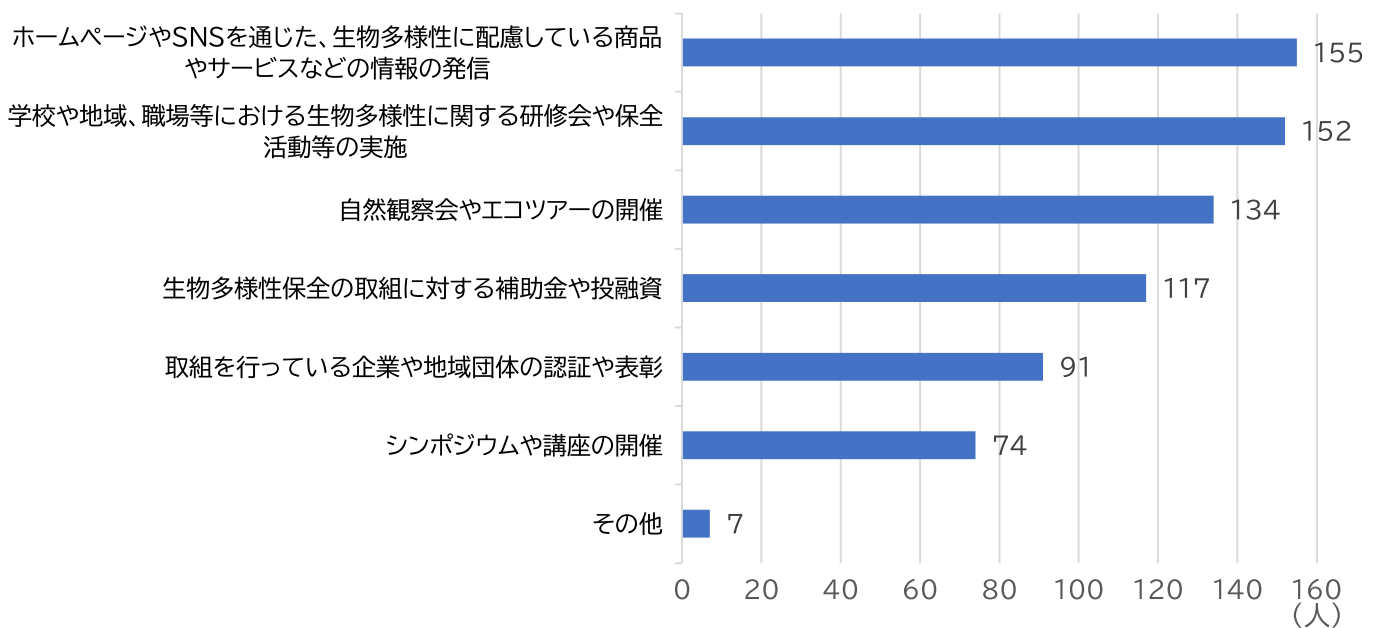
項目	人数(人)	割合(%)
外来生物の分布拡大・被害を防止する	142	53.6
希少な野生動植物を保護する	115	43.4
環境負荷の低減など、事業活動において生物多様性に配慮した取組を実施する	97	36.6
保護区の設定や緑地の確保等により、生きものの生息・生育環境を保全する	74	27.9
人が自然に触れることができる場や機会を増やす	73	27.5
鳥獣被害対策を実施する	51	19.2
生物多様性に関する調査・研究や、環境学習の推進に取り組む	47	17.7
開発の規制等を拡充する	30	11.3
地域団体やNPOなどによる生物多様性保全活動を増やす	24	9.1
その他	2	0.8



●問8 生物多様性保全の推進方法

みんなが生物多様性保全につながる活動を始めたり、進めるきっかけになる取組として、どのようなことをすると良いと思いますか。(いくつでも選択可 n=265)

項目	人数(人)	割合(%)
ホームページやSNSを通じた、生物多様性に配慮している商品やサービスなどの情報の発信	155	58.5
学校や地域、職場等における生物多様性に関する研修会や保全活動等の実施	152	57.4
自然観察会やエコツアーの開催	134	50.6
生物多様性保全の取組に対する補助金や投融資	117	44.2
取組を行っている企業や地域団体の認証や表彰	91	34.3
シンポジウムや講座の開催	74	27.9
その他	7	2.6



●問9 生物多様性についてのご意見

その他「生物多様性」についてご意見がありましたらお聞かせください。

【普及啓発・環境教育】

- ・ 子供が自然と触れ合える機会の増加が必要。幼児期から中高生に至るまで、積極的に自然に触れる経験を増やしてほしい。親子で自然に触れることができる・知ることができる機会を作してほしい。
- ・ 日本は生物多様性についての学びの機会が少ない。環境問題には教育が重要。家庭や学校、地域などで生物多様性についての話題が取り上げられるよう、普及啓発が必要。
- ・ あらゆる機会を捉えて生物多様性の重要性をアピールし、県民参加の活動につなげていくことが大事。
- ・ 一県民として生物多様性に対して貢献できることがあれば些細なことでも行動していきたいため、情報発信してほしい。
- ・ 積極的な広報活動等により地域の自治会活動の一部に何らかの保全活動を取り入れてもらうようにするのもよいと思う。
- ・ 自分の住んでいる地域の生物多様性の状況を知る必要があるとともに、生物多様性の危機を引き起こしている社会経済活動についても知る必要がある。
- ・ 各自がどのように対応して行動するべきなのか、自分達で考えて判断できるようにする必要がある。

【外来種】

- ・ 琵琶湖水系の外来種(ブラックバス・ブルーギル)の排除は急務である。
- ・ 心無い釣り人によるキャッチアンドリリースも見受けられる。外来種に係る違法行為の摘発・啓発の活発化が必要。

【鳥獣害対策】

- ・ 生物多様性保存は大切だが、鳥獣害対策に悩んでいる地域も拡大傾向にある。
- ・ 鳥獣害対策のためにも山林の間伐など継続的な手入れが重要。
- ・ シカ等による獣害に関し、獣害柵の設置などにより「山と人の生活圏との往来を防ぐ」取り組みは進んでいるが、山の中では依然としてシカの個体数は多く、植生や登山道への悪影響、ヤマビルの増加などの影響がある。
- ・ 獣害対策の担い手の育成のほか、有害鳥獣の繁殖を抑制する方法の研究などへの支援も必要。
- ・ 被害があれば駆除を行うなどの人間主体の考えも止むを得ないと思うが、できる限り野生動物と共存できる手法を模索していくことが必要。

【森林】

- ・ 滋賀といえば琵琶湖となりがちだが、県の面積の半分を占める森林についてももっと知りたい。
- ・ 生物多様性保全のための森林整備が必要。

【農業】

- ・ 農薬・化学肥料の投与に依存した農法では生物多様性に配慮した循環型の農業はできない。農業振興と生物多様性保全について、政策の調整が必要。
- ・ 除草剤等の必要以上の農薬使用を規制すべき。除草剤を使用する代わりに草刈りをすれば補助金を支給する制度などを検討してはどうか。
- ・ 琵琶湖システムの世界農業遺産登録に向けたPRを見て、琵琶湖と田んぼをフナやナマズが行き来していることを知った。より多くの人にこの自然と人の豊かな関係を知ってもらいたい。

【社会経済活動】

- ・ 企業における生物多様性の取組を推進するため、融資制度や助成金制度の拡充が必要。
- ・ 起業に当たり生物多様性にかかわる取組の選択もできるよう創業支援制度の充実が必要。
- ・ 過度の自然破壊はやめるべきだが、自然保護のために過度に社会経済活動を抑制することもおかしい。

【河川管理】

- ・ 川の治水などではコンクリートで固めるだけだが、生きものに配慮した対策が必要。
- ・ 洪水対策のための浚渫は必要だが、生物多様性への配慮も必要である。
- ・ 河川内の繁茂した河畔林は、生物多様性を名目に保全されているが、河川流域の住民を危険にさらしている。

【開発】

- ・ 緑化に当たっては在来種を用いるべき。
- ・ 様々な対策を行ったとしても、環境に配慮していない大規模開発が行われれば水の泡になってしまう。

【気候変動】

- ・ 生物多様性保全も重要だが、気候変動対策ほどには人々の関心が高まっていない。
- ・ 生物多様性と気候変動の関係など、広範にわたる環境保全に係る課題について総合的な施策を行政主体で検討してほしい。

【環境・生物多様性への思い】

- ・ 個人で出来ることは限られているが、自然環境の維持・向上に貢献したい。
- ・ 滋賀県は、都市として便利でありながら、自然豊かで野生生物とも身近に触れ合えるバランスの良い地域。そうした地域特性を活かし、人間も含めた生物がいい関係を保っていけるような取組を行ってほしい。
- ・ SDGs という言葉がファッションの流行のように取り上げられていることに強い違和感を覚える。
- ・ 人が自然を支配しようとするのではなく、自然が持つ力に委ねることが必要。